

神戸市と（社）日本動物福祉協会CCクロの官民協働

Cooperation between Kobe City and the Japan Animal Welfare Society City Center Kuro

北村 美代子 社団法人 日本動物福祉協会CCクロ

Miyoko KITAMURA Japan Animal Welfare Society City Center Kuro



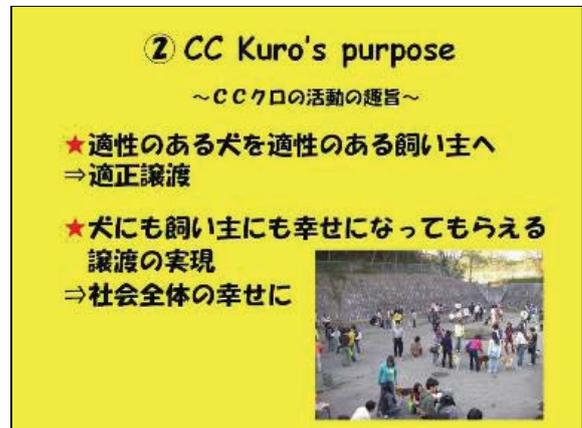
ただいま御紹介にあずかりました、社団法人日本動物福祉協会CCクロの北村と申します。きょうは神戸市とCCクロの官民協働について、民の立場からお話をさせていただきたいと思えます。また、その前に、本日このような機会を与えてくださった関係者の方々に深く感謝の気持ちを述べさせていただきたいと思えます。本当にありがとうございます。

ターをシティセンターと省略して、頭文字をとったもので、クロというのは本格的に成犬譲渡が始まってから最初にしつけのモデル犬となった犬の名前です。譲渡講習会の中で、しつけのデモンストレーションをしていました。もとは迷い犬として収容されたんですが、成犬でも家庭犬としてのしつけを備えていれば譲渡できるという象徴でもありました。現在は当時センターに勤務しておられた行政獣医さんのところで家庭犬として穏やかに老後を送っています。【スライド2】



【スライド1】

まず最初の写真ですが、先日開催しました譲渡犬の同窓会の際のものですが、44組の御家族に御参加いただいたのですが、犬同士のトラブルであるとか、事故といったものが一切なく、犬も飼い主さんともに笑顔で集えたということがこの私たちの活動の誇りであって、基本にもなっています。【スライド1】



【スライド2】

私たちの活動の趣旨なんですが、大きくは二つございます。適正譲渡を進めることで社会に迷惑をかけない飼い方を広めていくこと。そして、もう一つ大きな趣旨なんですけれども、犬の幸せだけを考えるのではなく、その犬を迎えてくださった飼い主さんにも幸せになっていただいて、そういった犬と暮らすことの幸せを社会全体の幸せにつなげていくこと。社会全体に受け入れていただくようにしていくことです。そういった趣旨のもとで、譲渡候補犬にかかわることすべてを私たちが活動として365日、毎日休みなく、神戸市動物管理センターにおいて活動させてもらっています。【スライド3】

活動内容の方を大きく五つに分類して御紹介させていただきます。まずは、清掃についてなんですが、CCクロではかなり、ここに力を入れています。「動物福祉の基本は清潔から」というのを合い言葉に、常に清潔であることを心がけています。床の水切りをした後も、犬がぬれないように念入りにぞうきんでからぶきをして、犬が快適に過ごせる環境づくりに努めています。それから犬舎の方は、1室に1頭が基本です。子犬の場合は2頭、



【スライド3】

さて、よくCCクロって何なのと聞かれるんですが、CCクロの名前の由来なんですが、CCは動物管理セン

3頭と兄弟で一緒の犬舎を使うこともあるんですが、成犬の場合には、犬にかかるストレスに配慮をしまして、1室1頭というのを原則にしております。

【スライド4】【スライド5】

続いて、飼養管理です。これから散歩に出かけるときの様子なんですが、この日はボランティアさんたちの交流会も兼ねまして、センターの近くの山へピクニックに出かけました。夏の暑い日なんかですとアスファルトの上を歩くということが非常に犬にとっては厳しいので、時間帯によってはプールを出して、これは一応人間用のプールなんですけども、プールを出しまして水遊びをして、そういった遊びの中でエネルギーの発散をしてもらっています。

それからドッグランとして使えるスペースもございませので、そこで犬の相性を見ながら、犬同士で触れ合える時間も作り出しています。ただ、こういう場で勝手に犬同士を遊ばせて終わりというわけではなくて、こういった機会に、呼び戻しの練習なんかも取り入れてトレーニングを行っています。

また、子犬の散歩なんですが、リードになれるという大事な要素もありますが、そのほかにも社会化の一環として、土の上やアスファルトの上だけを歩くのではなくて、いろいろな足場のところを歩くようにしています。ただ、こういった場合の注意点としては、決して無理強いしないということです。ですので、よく犬の状態を見きわめて、ここまできなと思ったときにはもうちょっと軽くだっこして歩いてあげたりというようなケアも行っていきます。【スライド6】

シャンプー・トリミングは定期的に行っています。この右側の犬ですが、保護されたときは毛玉がたくさん、このような状態でありまして、毛も薄汚れた色をしてました。私たちはこの犬を、顔を一目見て、小森のおばちゃまみたいというふうな印象を受けまして、会場にお越しの若い方は御存じないかと思うんですけども、往年のほのぼのとした映画評論家の小森和子さんを連想しまして、そこでこの犬のセンターでの名前がこもりになったんです。ブラッシングをしてから、シャンプーをして、はさみを入れてカットして、2時間後にはこのようなきれいな状態になりました。現在では新しい御家族のもとで、まるちゃんという名前になって大切に育てていただいています。【スライド7】

上の二つの写真は、子犬の一時預かりの様子です。センターでは経験できないことを家庭での生活を通して経験するというので、社会化を進めるようにしています。

それから次に、評価についてなんですが、譲渡する犬

③ CC Kuro Activities

～CCクロの活動内容～

- ・清掃(犬舎清掃、環境整備など)
- ・飼養管理(散歩、しつけ、社会化、健康管理など)
- ・評価(犬の選定、飼い主への事前事後訪問調査など)
- ・アフターフォロー(しつけ相談、譲渡犬同窓会、不妊手術助成など)
- ・広報(PR活動、募金活動、ボランティア募集など)

【スライド4】

★清掃

動物福祉の基本は清潔から

★B室

一室一頭⇒犬のストレスに配慮

【スライド5】

★飼養管理

**これから散歩に行きます！
近くの山へピクニックに！**

夏の暑さ対策にプールあそび

**ドッグランスペースで
ふれあいフレイセッション**

**子犬の
社会化**

色々な足場を歩く

【スライド6】

トリミング

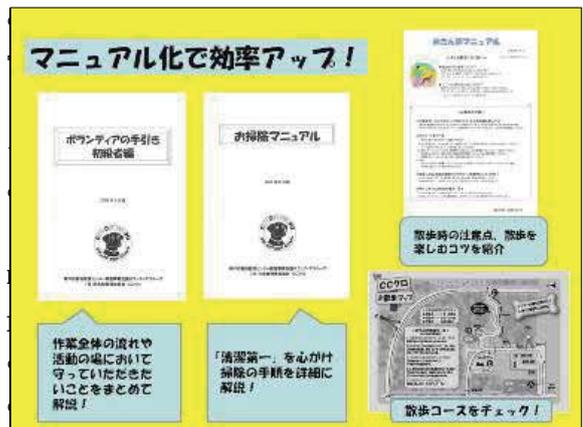
シャンプー

【スライド7】

については1頭1頭の犬の健康状態や気質を見きわめて、問題行動があるような場合にはその把握も含めて犬の選定を行っています。そして、家庭犬として適性のある犬を譲渡しています。

それから訪問調査なんですが、犬を譲り受けたいと希望する方の御家庭を譲渡前に訪問させていただいて、飼育環境の確認なんかをさせていただいています。譲渡後に犬が何回も脱走するといったような、少し不適切な飼育状況の事例というも過去にございましたので、現在では神戸市の職員とCCクロとで分担して、すべての御家庭を回っております。必要に応じて譲渡後も家庭訪問させていただきまして、困り事なんかのフォローもさせていただいています。【スライド8】

^ ` o M h i M o z w q p b q T z S 2 w q
V w « : s T s r g r ` o M h i M o z ` Æ
w " 0 g r ` o M h i z O t ` o S b {
yA B t B / B B : : A



h z » ¥ Ø t m V
- p " p ^ d o M h i M h Æ I X w
T t z ` m Z w M d o
X 4 Q o M h i M h ` M ^
~ [R O æ
^ d o M h i M o S b {
y Æ I w { - * p x z b p
" p x , p ` h U z \ q `
_ b q , w " p t s l o S
w " p w M U T l h w t x z
M l h w ` l T q ` M ^
w M t g r ` o M h i X p t ,
> U K l h q M O \ q q x p V s M p b ` z A B t B / B B : : A
, T ` h \ w i Z w : " p _
~ t w q M l h w G V
{
y ÿ C ~ t m M o x z æ j ç
~ t C ^ d o M h i V `
d o M h i M o S b { h z
g r M h i M o M b ; , H w
V ` o z z] ~ > ç w M
- ~ q M O w M o M h i M
« Ø w % ` q q t 7 ~ ^
b Æ B t B / B B : : A
y ^ o z « Ø w M p x ^ f i p X z p ` x t z \ O M l X w Æ H Ø t b \ q b
o M X h t z ` Æ / m X l Ø S b { ` i Z p L h o' ç M l h \
` w V w T z S D ` Æ p z Ø T2 { ` t q l M O w x z
` Æ Sz 2 ÿ q M O w ; ` o S b { y C \$ t O \ q p l b » w p z R
` Æ U K T q M l o z ` Æ Z p x K I d ` Æ O U U p
, o z x M z p x \ w q S p B Ø o X i Z ^ M v q p b { p b Ø p b z f o s
M O w p x s X o z F w ` ` w M h j p t z x ` z T \$ t y l o M Z i
s p x ` w ` O T q M g q m w t j Æ o X T Ø O p b {

そうなったときに、やはりすべてを把握して責任の所在をはっきりさせて、神戸市さんとの調整も行いながら、まとめ役になるという役割を担う人材が必要になってくるかと思えます。そこで、現在ではこの私も含めまして、常勤スタッフが2名、それから土曜日、日曜日、祝日のみのアルバイトのスタッフが1名の計3名の有償スタッフを配置しております。人件費の方は社団法人日本動物福祉協会の方が負担しております。【スライド11】

さて、神戸市との協働体制の中においては、メリットとデメリットの両方があるかと思えます。まず、メリットの方なんですが、先ほどもちょっと湯木先生のところで御紹介いただいたように、施設は老朽化しているとはいえ、神戸市さんのものですので、施設は既にあるって維持費なんかはもう神戸市さんの負担になるということが、まず一つ大きなメリットとして挙げられると思えます。それからもう一つは、これは行政とともに活動しているということへの社会的な信用が得られているんじゃないかなということが挙げられると思えます。

一方、デメリットは、やはり行政機関というのは客観性であったりとか、法的根拠がないと動けないというもどかしさもございますので、私たちの願っていること、要望が即座に通らないということもございます。それから、公の施設での活動になりますので、公務員に準ずる守秘義務などの制約が多いといったようなことから、ちょっとかた苦しい団体なん違うかなというふうに思われがちということも挙げられると思うんです。しかし、こういったデメリットがありながらも、それでも一緒にやっていけるというのは、お互いになんかのものを補っていきながら、よりよい譲渡を進めていきたいという大きな目標によるところが大きいと思えます。【スライド12】

そうして今後、行政の担当者の方が変わったとしても、方向性にぶれが生じることがないように、日ごろから定例会議という場を設けて、その中で協議をしております。また、日々のコミュニケーション、対話によるコミュニケーションというのを非常に大事にしております。そんな中、昨年、CCクログが神戸市さんから市民福祉顕彰奨励賞という賞をいただきまして表彰を受けました。私たちの活動が単に犬を救うという、そういった部分だけを重視しているのではなく、飼い主の幸せ、社会の幸せをも目指しているということが市民の福祉に貢献していると認めていただけたというふうに思っております。従来は対人活動のみ、人に向けられた活動のみが表彰の対象とされていただけ

に、対動物活動が初めて認めていただけたということをととても私たちは誇りにも思っております。【スライド13】

④ Volunteers do everything ?
 ~すべてをボランティアでおこなうことはできるのか?~

- ・作業人数確保、人数調整
- ・犬の健康状態把握
- ・活動資金の管理、寄付や募金の受付 等々

⇒ 無償ボランティアの立場で永続的にすべてを把握し責任を負えるだろうか?

↓

専属の常勤スタッフが必要!

【スライド11】

⑤ In cooperation with Kobe City
 ~神戸市との協働体制の中で~

〈メリット〉

- ・施設がすでにあり維持費は神戸市負担
- ・行政とともに活動していることへの社会的信用

〈デメリット〉

- ・客観性、法的根拠がないと動けない(行政ため要望が即座に通らない)
- ・公務員に準ずる守秘義務等の制約が多く堅苦しいと思われがち

【スライド12】

官が民を信頼してくださった証



社会の福祉に貢献していることがやり甲斐につながる

【スライド13】

では、私たちがどのようにボランティアさんたちの受け入れをさせてもらってるかと言いますと、まず、ボランティアを希望する方向けにオリエンテーションというのを開催しております、オリエンテーションの受講とともに譲渡犬の施設の見学をしていただきます。実際に現場を見て、私たちの話を聞いていただいて、実際にボランティアをやれそうかな、できそうかなというのを考えていただいてからボランティアとして参加したいですといった形で申請書というのを提出していただいています。

それから後は、もうボランティアさんですので、自由に来れる日というのを設定していただいて、事前に御連絡はいただくんですが、初回に御参加いただくときに誓約書というのを提出していただいております。誓約書の内容なんですけれども、先ほども申しましたように、公の施設での活動になりますので、公務員に準ずる守秘義務というのがもちろん発生しますので、そういったことを守ってくださーいねという内容であったりとか、それから個人的な活動ですね、過去に事例のあったものなんかで言いますと、個人がされている活動の広報とか宣伝であったりとか、ビジネスの物品の売り込みであったりとか、印刷物の配布といったような個人的なことは一切、こういった場に持ち込まないということを、ルールとして明記もさせてもらっておりますので、皆さんには自覚を持って御参加いただいております。【スライド 14】

では、こういった方々が参加されているのかというボランティア希望者のデータを少しまとめてみましたので、簡単に紹介させていただきます。ボランティアオリエンテーションの方をスタートさせました、2007年6月から約2年間のデータになります。男女比と、それから年代別の内訳なんですけど、体力を必要とするお散歩とか清掃、お掃除といったような作業が多いので、見ていただいたらもうはっきりとわかるように60代になるとがくんと希望者の方が落ちてしまうんです。

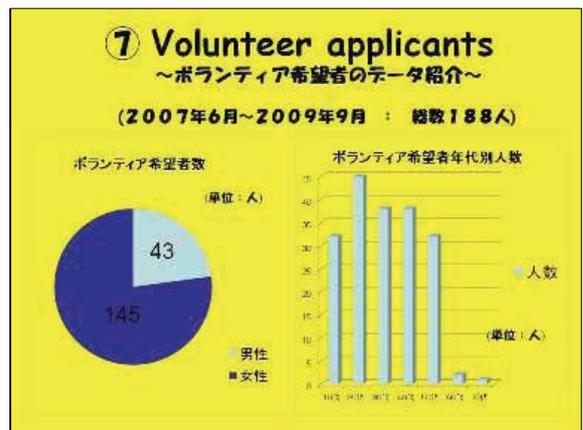
それから職業別や飼育経験があるか、ないかどうかというようなデータもちょっとまとめてみたんですが、職業別のところであえて専門職と分けさせていただいているところは、動物関連のトリマーの資格をお持ちの方も時々協力したいというようなお申し出をいただいておりますので、あえてちょっと分けさせていただきました。それからここで学生と分類させていただいているのは、高校生以上の学生さんを指しています。無職の中には定年を迎えられた方ですとか、現在、職を探しておられる方やフリーターの方が含まれております。

インターネットの普及によって、やはりどうやってこのボランティア活動があることを知ったのかというふうにお尋ねしてみますと、情報をネットから入手される方が最も多いんですけど、中には口コミであったりとか、それからチラシを見て来てくださる方も結構おられます。チラシは、以前はボランティア募集に特化した1枚ものだったんですが、少しでもCCクロの活動をよりわかっていたいただくために、新たにリーフレットの方を作成いたしました。この会場の入り口のところでも配布させていただきますので、ぜひご覧ください。

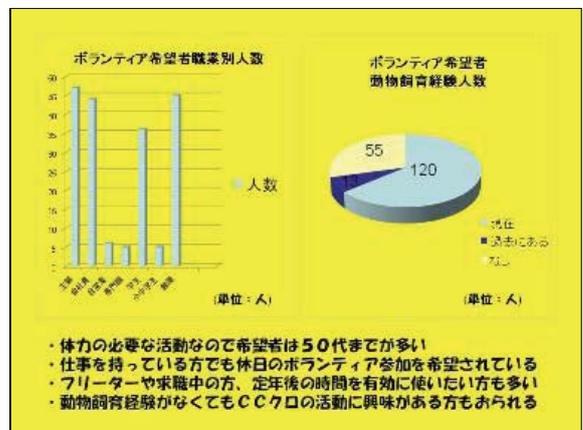
【スライド 15】【スライド 16】【スライド 17】



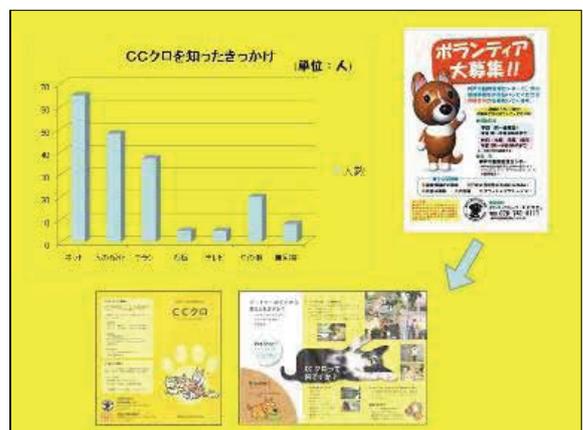
【スライド 14】



【スライド 15】



【スライド 16】



【スライド 17】

では、私たちの今後の課題を考えてみますと、さまざまな方がボランティアをしたいというふうに来てくださるんですが、なんと定着率は約20%なんです。世話をする犬の頭数にもよるんですが、現状では大体1日、最低でも5人ほどは必要としています。そこで、少し平均人数というのちょっと計算して、出してみたいんですけど、この平均人数というのは我々有償スタッフを除いた数字ですので、平均の数字だけを見てると何や足りているやんかと、一応最小限の人はそろっているやんかと思われるかもしれないんですけど、あくまでも平均でございまして、極端な話は、実際、日によって非常にばらつきがあるものですから、ボランティアさんがゼロという日もございます。

それから逆に、7人、8人、9人、10人とたくさん来てくださるときもありまして、そのときになってみると人数確保の見込みが立たないという難点がありますので、私たちスタッフも前日になるまで、あした本当に休めるのかどうか分からないといったような事態も発生することがございます。

そこでボランティアさんが定着しないのに考えられること、いろいろ考えてみたんですが、場所的に車で通っておられる方もたくさんおられるんですけど、電車やバスを乗り継ぐと結構交通費がかかってきますし、遠いと感じる方もおられるので、やはりそういう点で不便なのかなというの考えられます。それから先ほどの、ちょっとデータでも見ていただいたように、掃除とか散歩といったような体力が必要な仕事、作業が非常に多いので、体力的に続かないであったりとか、あるいは楽しいことだけ、犬と触れ合えるんだ、遊べるんだという楽しいことだけをイメージして来られた方にはやはり体力的に厳しいのかもしれない。

また、公の施設での活動になりますので、常に処分とは背中合わせということになりますから、そんな現実ではできれば目にしたくない、直接見たくないといったような方も中にはおられます。しかし、1頭1頭に行き届いたケアを行っていくためには人手の確保というのは絶対に必要でありますし、さらに多くの方に続けていただくためにできることがあるんじゃないかなというふうに考えております。【スライド18】

^ t ' T d o M h i V ' h {
y x z U M a p K \ q z t
? T \ O M O t p p V \ q U K i q M O
U q M O \ q U z \ w ' ~ w
C w I t m s U l o M q M O \ q U
\ T ' X ¥ t C l o M h i X M t z t h j
q y t ~ ' o M h i X / p z w
Æ ' > † ^ G ~ t ' s U z f w s w
U M a o M h i X q M O \ q U X Z o M h i Z
\ q t m s U a s M T s q M O ~ O t a o M
b 【スライド19】

⑧ CC Kuro's Challenge
~CCクロの今後の課題~

- ・現在のボランティア申請人数 **208人**
- ・現在のボランティア登録人数 **83人**
- ・現在のボランティア実働人数 **40人**

⇒定着率約**20%** (⇔ 一日最低必要人数 **5人**
(一日平均**3.7人**... 平日**3.1人** 休日**4.9人**)

定着しない理由は?

- 遠いし交通費がかかる...
- 抑留も散歩も思っていたよりしんどい...
- 公の施設で厳しい現実を目の当たりにするのが辛いと感じる...

【スライド18】

さらに多くの方に続けていただくには?

やり甲斐を感じられる場であること

- 犬たちが自分と散歩に行くことを心待ちにしてくれている!
- 自分の子供を叱ることが減った。いつのまにか犬に癒されて嬉しかった!
- 同定会で再会した犬たちが飼い主さんのそばで笑顔でいてくれることが何よりも嬉しい!

さらなる活動の充実に向けて

- 譲渡事業の拡充
- 他施設・他団体との情報交換
- 子ども向けセミナーなどの啓発活動の充実

【スライド19】

y h z t h j w M w > ' o M X ^ p X
w T ¶ \ q U K l h z ' ^ w
q Ø w / T ¶ \ q U K l h b / p z l q) S
' o h M s q T z X w \ q g r ' h M s q T z f
p x r s » ' o x O q T z M t U \
w p ¶ i \ q l q l q H w / t ; o M V h
M t z X Z o X i ^ l o M q M l h ' O s > ^ , j j \ Q o V b { f w > , j
h j w ' M o ' h z ~ i T X O t x ~ t S Ø ^ d o z t h j w ~ ^ t F ^ d o
o M p b Z r { ~ i V b q z f s M X h t z ° q ' o w ' ; x 0 t O
t p t Q Z s M s M T z ? p f s \ q X ~ D = p K q ¥ l o S b Q y z † ' X Æ w
q S ' T ! Z p b U z s x O j q I æ r w Æ I ~ w f F q M O w z w G V ' s L
^ p C f l ' h M T ; t O o q S & M ' ' o z w m i q q Q o S b {

また、これまでは近隣の動物愛護センターの見学ですとか、実際に見学に行かせていただいた際に合同勉強会というのをさせていただいてきたんですが、より多くの施設ですとか、ほかの団体さんとの交流を図って、工夫されている点なんかを学ぶ機会というのも継続して設けていきたいというふうに思っております。そして、ただ単に犬の譲渡事業を行うという、保護した犬を新しい飼い主さんにもらっていただくという、譲渡の数だけを優先した対症療法だけにとどまるのではなくて、どうすれば入ってくる数を、保護されてくる数を防いでいけるのかといったような、予防に力を入れるためにも今以上に啓発活動というのを進めていきたいというふうに考えております。

犬と飼い主と、その社会の幸せを目指した譲渡の質をこれからも維持していくためにも、これからも多くの方の御協力、御支援が必要になってきます。現場の方でも、よりよい譲渡に向けてきめ細かいケア、フォローを心がけていきたいというふうに思っております。



【スライド 20】

限られた時間の中ですべてをお伝えするのは非常に難しいのですが、活動の様子ですとか、現在の譲渡候補犬、どんな犬がいてるのかなといったような様子などはホームページでごらんいただけます。また、先ほど御紹介しました、新しくボランティアを始めたい方に対してオリエンテーションを開催していますよということだったんですけれども、日程の方もホームページの方で確認していただけますので、ぜひごらんください。【スライド 20】

今後も、この私たちの官民協働の活動が、ここ神戸の地だけにとどまらず、広く広まって行って、そしてまた人と動物がともに暮らすということが、社会全体の幸せにつながるようにと、そういった活動として今後もしっかりと続けていきたいと思っております。

どうも御清聴ありがとうございました。

○山崎恵子

北村さん、ありがとうございました。最初におっしゃった、動物の福祉の基礎はまず清潔からという言葉は大変重要だと思います。それを聞くとちょっと耳の痛い、愛護団体を名乗っておられる方、日本全国に多数おられるような気もいたしますので、皆様、動物の福祉は清潔からという、この基準でぜひ、周りの団体等の判断をしていただきたいというふうに思います。

それでは5分ほど休憩し、こちらでちょっとパネルのセッティングをいたします、5分ほどここでトイレ休憩をとらせていただきます。しばらくお待ちくださいませ。